

# 冒険教育プログラムが大学生の劣等感に及ぼす影響 ～共同体感覚との関連に着目して～

卯内 美冴 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)  
指導教員 中野 友博

キーワード：冒険教育プログラム，大学生，劣等感，共同体感覚

## 1. 序論

返田は、「格差社会」などの言葉が頻繁に聞かれる現代社会で，青年期は他者との差や自他の相対的な位置を強く意識している心理状態に置かれているため，他の時期に比べ劣等感が強まる時期であると述べている<sup>5)</sup>。野田は，共同体感覚の発達には劣等コンプレックスの克服にとって重要であることを指摘している<sup>3)</sup>。大学生を対象とした研究で共同体感覚と劣等感の間には負の相関関係があることが明らかになっており，共同体感覚を持てている人ほど，劣等感を抱かないと予測される<sup>4)1)</sup>。

そこで本研究は，冒険教育プログラムが大学生の劣等感に及ぼす影響を明らかにするとともに，共同体感覚に着目し，劣等感の変容要因を考察することを目的とする。

## 2. 研究方法

【被験者】平成 28 年 9 月 15 日～21 日（6 泊 7 日）に実施された B 大学野外スポーツコース専門実習参加者の内，回答に不備のあった 3 名を除く 30 名を対象とした。

【調査内容】高坂<sup>2)</sup>が作成した劣等感項目尺度から 7 因子 28 項目，高坂<sup>1)</sup>が作成した共同体感覚尺度から 3 因子 22 項目をそれぞれ使用し，5 件法で回答を求めた。また，筆者が独自に作成した自由記述形式のふり返しシートを用いて調査を行った。各調査時期について以下の表 1 に示す。

表 1 調査時期

	事前授業最終回 (pre1)	プログラム前日 (pre2)	プログラム中	プログラム直後 (post1)	プログラム 1ヶ月後 (post2)
劣等感項目尺度	○	○		○	○
共同体感覚尺度	○	○		○	○
ふり返しシート			○※		

※ふり返しシートはプログラム中毎日実施

## 3. 結果と考察

劣等感については，時期ごとの劣等感得点および全ての因子得点に変化はみられなかった。男女別では，pre1-post1間において，女子の身体的魅力のなさ因子得点が有意に低下し，pre1, pre2において性差に有意傾向がみられ，男子の方が女子より低い得点を示した(表2)。

表 2 男女別の身体的魅力のなさ因子得点の分散分析結果

群(N)	M(SD)				F値		
	pre1	pre2	post1	post2	調査時期	性別	交互作用
男子(20)	9.65(3.62)	9.00(3.74)	9.30(3.81)	9.55(4.76)	2.193 †	3.293 †	1.296 n.s.
女子(10)	13.70(4.79)	12.10(5.34)	11.30(5.72)	11.80(5.12)			

† : p<.10

共同体感覚については，時期ごとの共同体感覚得点および全ての因子得点が有意に向上した。男女別では，男子の共同体感覚得点および全ての因子得点が有意に向上した。

共同体感覚得点 H・L 群別の劣等感得点の変化については，pre2 および post1 における共同体感覚得点 H・L 群間に有意差がみられ，H 群の方が L 群より低い得点を示した(図 1)。

ふり返しシート得点 H・L 群別の劣等感得点の変化については，pre2-post1 間において，H 群の他者に対する意見尊重得点の低下に有意

傾向がみられ，post1 において H・L 群間に有意差がみられ，H 群の方が L 群より低い得点を示した(図 2)。

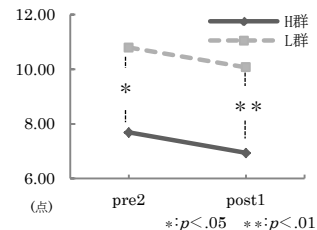


図 1 pre2 共同体感覚得点 H・L 群別にみた異性とのつきあいの苦手さ因子得点の変化

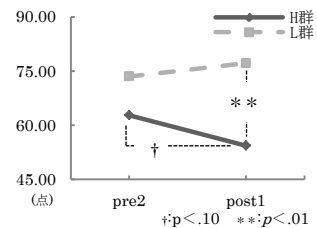


図 2 他者に対する意見尊重得点 H・L 群別にみた劣等感得点の変化

女子の身体的魅力のなさ因子得点が低下した要因は，冒険教育プログラムでの他者との関わりが，自身の容姿に対する劣等感を消去あるいは減少させたと考えられる。また，男子のみ共同体感覚が向上した要因として，ふり返しシートの記述内容から体力のない女子に対しての貢献ができていたことが読み取れた。反対に，女子は男子に助けをもらう場面が多かったことや，疲労感からプログラムに対しネガティブになってしまったことなどが記述されており，共同体感覚に変化がみられなかったと考えられる。さらに，「異性とのつきあいの苦手さ因子」のような他者との関わりの中で生じる劣等感を抱かないということは，冒険教育プログラムにおける共同体の中での他者との関わりがうまく行われていたと考えられる。また，プログラム中に他者の意見を尊重できていたことが劣等感の減少につながったと考えられる。

## 4. まとめ

冒険教育プログラムは共同体感覚の向上に効果があるといえる。冒険教育プログラムにおける共同体感覚得点が高い学生ほど，異性とのつきあいの苦手さに劣等感を抱かないといえる。また，冒険教育プログラムにおける他者に対する意見尊重得点が高い学生ほど，劣等感を抱かないといえる。

## 引用・参考文献

- 1) 高坂康雅(2011)共同体感覚尺度の作成，教育心理学研究，59(1)pp88-99.
- 2) 高坂康雅(2012)劣等感の青年心理学的研究，風間書房.
- 3) 野田俊作(1989)アドラー心理学トーキングセミナー-性格はいつでも変えられる-(マインドエージェンシリーズ 9)，星雲社.
- 4) 岡戸順一(2000)大学生の劣等感に関する一考察-共同体感覚尺度の因子分析による検討-，日本性格心理学会大会発表論文集，(8)pp40-41.
- 5) 返田健(1986)青年期の心理学，教育出版.